



自治労産別統一闘争を意識した
取り組みを強化しよう！
春闘要求から年間闘争サイクル
を確立しよう！

北見市議会議員選挙

推薦候補2名勝利！！

3月23日に北見市議会議員選挙が執行され定数28人に対し33人が立候補する激戦となりましたが、北見市職労、道本部、網走地方本部が推薦決定した新人の「川島あきのり」と2期目に挑戦した「すみだ一男」の両氏が無事当選を果たす事が出来ました。この間いただいた、多くの仲間からのご支援、ご協力の成果だと考え

るとともに、改めて政治闘争の意義や課題を考えさせられるものとなりました。今後、地本では政治闘争の勝利のため、学習活動や交流の場をつくっていき

ます。
※投票の結果は、北見市のHPで見ることが出来ます。



ダルマに勝利の「V」を書き入れる川島氏

第35回全国町村職総決起集会

参加者からの感想の「つつき」

2月に開催された総決起集会には網走地本内から10名の参加がありました。今回は、本紙第3号に引き続き、参加者の感想を照会します。▼今回、集会に参加して、あらためて国による地方公務員の賃金削減に対して怒りを覚えたところです。また、あいはらくみこ参議院議員、えさきたかし参議院議員から貴重なお話をいただけただけことは、今後の組合活動にとって大きなプラスになると思います。この度の経験を基に、政治闘争に関する意識の薄い青年層での取り組みを強化していきたい

と思います。集会に参加したことで、よい刺激を受けることができたので、今後積極的に各種集会に参加していきたいと思えます。(増田進太郎・斜里町労連)▼多くの仲間との交流ができ、また、集会での交渉の経過報告や、推薦議員からの国会情勢などを生の声を聞くことができ、私たちが置かれている状況を肌で感じる事ができました。町村職員は自治体数では、半分以上を占めているが、職員数でいえば小さな組織である。私たちの声を中央に伝えていくため、組織や我々のために中央に声を届けてくれる推薦議員のみなさんの大切さを改めて感じました。署名活動や政治活動などが運動の大きな力になることを単組の組合員に伝えていきたい。(福川和也・滝上町職労)▼前段の病院集会に参加して感じましたが、自治労に結集しながら、単組間の連携や到達闘争を改めて考えることが大事だと思えました。組織の世代交代が進んでいますが、制度の内容や闘争の経過などをどのようにつなげていくのか。特に賃金制度や諸権利など、理解をしていなければ闘争にならない。当面、賃金制度見直しに対してのたたかいをどう作るのか、前回の構造改革時における制度見直しでの不備を見つけてしまったので、改善に向けて取り組みを進めたい。(武山和史・斜里町労連)▼人員確保の問題や地方財政の削減、臨時・非常勤の増加など日々身近に感じている問題が多く、全国の町村職員の連携の意義を感じました。知らないこと、わからなかったこともあり、勉強の必要性も感じました。職場で組合への参加意識が低く、私同様、色々な問題をよくわからない人が多いのではないかと感じています。少しずつでも学んだ内容を伝え、まずは、職場の中で連携がとれるようになりたいと思いました。(板縁真規子・斜里町労連)